

万博で発表の場 小中高生に スーパーシティ 規制改革の提案募集

—加治木府議の2月定例会の質疑・質問より—

加治木一彦府議は3月12日、府議会府民文化常任委員会で大阪・関西万博への小中高生の参加機会づくりやスーパーシティに向けた提案募集などについて質疑・質問をしました。概要は以下の通りです。

万博の会期中、府内市町村とともに開く「大阪ウィーク」で小中高生が吹奏楽、バレエ、ダンスなどのパフォーマンスを披露するほか、高校生が健康や多様性など万博のテーマにちなんだトピックについて自分たちのアイデアを発表する「高校生EXPOサミット2025(仮称)」などが予定されています。

2021年10月の府議会本会議の代表質問で加治木府議が「子どもたちの素晴らしいアイデアを万博会場で発表する機会を提供してはどうか」と提起し、「大阪パビリオンで検討する」旨の答弁がありました。

スーパーシティはAIなどの先端技術を生全般に活かし、住民が参画し、住民目線で、2030年頃に実現される未来社会の先取りを目指しています。茨城県つくば市と大阪市の2か所が選ばれています。

これまでではうめきた2期地区、夢洲といった現時点で人が住んでいない地域で計画を進めていました。

2025年度、すでに人が暮らし、働いている地域や企業などから提案を募り、一定の要件を満たすものを選んで地域と企業のマッチング、規制改革の提案といった支援を大阪府・市が連携して取り組みます。

このほか、能登半島地域の子ども大阪観光招待事業、大阪都市魅力創造戦略なども取り上げました。

この日の様子は府議会ホームページの動画配信でご覧いただけます。→

大阪府議会ホームページ
▶ http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html



▲ 府民文化常任委員会で質問する加治木府議

淀川大堰開門、十三船着場が完成 観光など船の往来が可能に

国が整備を進めてきた淀川大堰開門(愛称・淀川ゲートウェイ)と十三船着場が3月16日、運用を始めました。十三船着場で利用開始を祝うテープカットがあったほか、淀川ゲートウェイを通航してきた船が着岸しました。

3月1日の関西広域連合議会の一般質問でも淀川の舟運を取り上げました。大阪・関西万博の期間中に運航される観光船内で日本酒の試飲や酒蔵を掲載した周遊地図の配付、講師陣による川や舟運にまつわる歴史・文化の解説、などを予定しているそうです。

また、流域の公園を活用し、魅力発信をするなど面的な広がりを持たせる、とのこと。これからも十三や淀川舟運の魅力を発揮できるよう取り組んでいきます。



▲ 十三船着場でテープカット



▲ 観光船が淀川ゲートウェイを通過

活動日誌より

3月 20日 大阪府中央区

八軒屋浜船着場で開かれた大阪府・市主催の「OSAKAリバーファンタジー」のオープニングセレモニーに出席しました。

大川水面上の右岸側に約100メートルの噴水を設置し、音楽に合わせて色とりどりの光に照らされた噴水が上がります。

東横堀川には阪神高速道路環状線の橋脚などに向けプロジェクションマッピングが映し出されています。

2026年2月ごろまで実施の予定です。ぜひご覧いただき、お楽しみいただければ何よりです。



▲ 東横堀川のプロジェクションマッピング



▲ 大川の噴水



「大阪府議会議員 かじき一彦」 Facebookページにて、議員活動の情報発信をしております。当該ページに「いいね!」を押していただけ、ぜひご覧ください。



X (旧Twitter) 加治木一彦



Instagram かじき一彦